

それぞれの尾張と伊勢

歴史講座の先生から「追っかけは困る」と言われても、面白いからしょうがない。
古代史 12 の謎・那珂川・御笠川の古代史・邪馬台国への道・遠賀川の古代史などがテーマで、追っかけたくもなる。

福岡に移住しなければ聞けなかったし、福岡の山や川や街道が記紀とつながって北部九州の古代史勘がついてきました。

さらに良いことは、年に二回の歴史旅があることで古代史おじさんや歴史淑女とお話ができること。座学だけでは他人のまま、旅の感動や食事談義で自分が新鮮になっていきます。

十一月中旬、ふくおかアジア文化塾の「尾張と伊勢の旅」に参加しました。福岡空港からセントレアまでひとつ飛び、知多半島道路を北上し、アツという間に神宮前に到着します。神宮前とは名古屋の人ならば熱田神宮。初日は断夫山古墳、朝日遺跡、萱津神社を見て回る。

この地では信長・秀吉・家康の三英傑が主役で、県内に古代史ツアーってあったのか？行ったことさえありません。例えば、犬山には東之宮古墳や青塚古墳がありますが、秀吉陣営の砦があった所と常に戦国時代のフィルターが掛ってしまいます。

二日目は草薙神社、加佐登神社、能褒野王塚古墳、忍山神社とヤマトタケルの伝承地を巡り、伊勢神宮を参拝。最終日は二見ヶ浦の夫婦岩で敬虔な気持ちになって帰る企画でした。

東京からも吉備、越からも「あつた辨天」に参集し、先ずはひつまぶしで腹ごしらえ。「蓬菜軒」(ひつまぶし発祥の店)に勝るとも劣らない、こんがり焼いたウナギは皆さん美味しかったようです。老舗のタレもお客がいなければ腐ってしまう。

熱した蒲焼の鉄串を、ジュッとタレ甕に入れることで秘伝のタレが腐らない。

私、熱田神宮のソバで生まれ、尾張で育ち、刈谷市の高校に通い、名古屋市と豊田市で長く仕事をしました。名古屋人は大いなる田舎者として東京にコンプレックスを持ち、トヨタ自動車もむかしは田舎企業と云われましたが「三河モンロー主義」は死語となったようです。

クニ分けの境川から東の三河地方はみんな田舎もん。

高校では日本のデンマークと言われた安城や刈谷、碧南、西尾から通う生徒は田舎もん。

さらに豊田の山奥の足助、猿投ともなれば三河もんが彼らを田舎もんという始末。

可憐な高一美少女の「はよやりん」「そおだら」なんてリンダラ会話を聞くと鳥肌が立ちました。地の人間にしか分からない、田舎もんヒエラルヒーが確かに存在していました。

時は流れ、今、豊田市には高速道路のインターチェンジが8カ所もあることをご存じでしょうか。高速道路や巨大工場の建設現場から遺跡が出たことを耳にしたことはありません。甘木・朝倉をぬける大分道の沿線に、掘れば遺跡や古墳が何十も出ると大違いです。

愛知県の重心が東に移動して、かつての田舎もん地域が産業の集積地に変貌しました。

熱田台地の南の端には熱田神宮。近くに断夫山古墳があり、ここは尾張氏の拠点です。宮簀姫がヤマトタケルから預かった草薙剣を奉斎鎮守するために熱田神宮を建立した。

「そうでしたか」これまではなんの想いも懐かずに、正月には熱田神宮にお参りし、あるいは豊川稲荷で幟を立てて、会社の発展を祈願する。「我が国の成り立ち」を考えることなど頭の片隅にもありません。今回の旅は熱田台地の西を行き、三重県を南下します。

清須市にある朝日遺跡は東海地区最大級の環濠集落で、遠賀川系土器が出土しヒスイも見つかり、きわめて重要な遺跡と先生の資料に記されています。ここを「狗奴国」に比定する邪馬台国近畿論者がいるそうですが、この地で何十年も仕事をし、何百何千の人と話をしてきましたが口の端に上ったこともありません。地から発する狗奴の匂いがしないのです。

あま市の萱津神社は漬物の神様、鹿屋野比売をお祀りしています。金色のメーテルに違和感。



ヤマトタケルが「藪に神物」と称え、漬物が「香の物」となったそう。

ここ甚目寺町の売りは、萱津神社ではなくて甚目寺観音です。

名古屋城から鬼門の方向にある笠寺観音、龍泉寺観音、荒子観音、甚目寺観音を尾張四観音と言ひ、恵方の時は門前通りも賑やかです。

「甚目寺で全国の8割の刷毛が作られていたのよ。それがね、鯨を食べちゃダメになって、内職が少なくなったの。だから余り協力できないわ」営業で訪問すると、どの家もおばあちゃん、おかあちゃんが陽当たりのいい作業台で“コンコンコン”と、毛を揃えて束ねて刈っている。

捕鯨禁止で捕鯨船が少なくなり、船体にペンキを塗る仕事が激減し、刷毛が要らなくなったのです。「風が吹けば桶屋が儲かる」の逆ですね。

草薙神社はヤマトタケル東征の折、剣を置き忘れたところ。祠の中の松の枯株をのぞく姿は、書紀の「松の下に置きたまなふ。遂に忘れて去でましき」の現物確認でしょうね。

徳川美術館で鎧を見るより、古代史好きには楽しいかもしれません。

加佐登神社（右写真）ヤマトタケルが主祭神。背後には白鳥陵がある。「あと 15 分あるから回ってみようか」とどこが帆立貝式の出っ張りか分からないが一列に並んでタッタカ歩く。古墳に詳しい方が先頭だ。次に行く能褒野王塚古墳は追葬墓らしい。大和にも河内にも白鳥陵はある。



忍山神社の主祭神は猿田比古命と天照大神。元伊勢。祀官の穂積氏忍山宿禰の長女が弟橘媛。入水してヤマトタケルを助けたお妃さま。

2013 年の式年遷宮が終わってから伊勢神宮へは三回目。五十鈴川の向こうに霞む山々とポールになびく日の丸の様は気高くも畏くも。

それぞれの伊勢神宮があっても良いのではなかろうか。滑ったことを云ったら矢が飛んできて、精神世界がズタズタになる感覚があります。

修学旅行は伊勢志摩で伊勢神宮。社員旅行で伊勢神宮。選挙が近づくと、社命により伊勢神宮。社長もいた、政治家もいた。やはり社会に出てからは迂闊な事は云えなくなった。

この前のゴルフ、日田カントリーで 3 人の方に「伊勢神宮に行ったことはあるか」と聞いたところ、誰も行ってないと云う。行ってみたいが「遠い」と云う。「さんぐうどうぎょう」とか「いせこどうぎょう」とか何を云っているのか、何回も聴きなおした。「参宮同業」「伊勢子同業」と書いてもらって分かったが、田舎にはお伊勢参りのようなことが「爺様の頃まで残っていた」と朝倉の人が云っていた。ゴルフより子供と伊勢に行った方がいいですよ。

天照大神、ニギハヤヒ、景行天皇、ヤマトタケル、吉備武彦、宮簀媛、弟橘媛とこの旅は登場人物が多すぎて、かつ加えて 30 人の古代史おじさんと歴史淑女のつぶやきで頭がパンパンになってしまいました。



おかげ横丁の赤福の縁側で五人、ホッと一息。二つ入りを三皿頼んだ。暖かいお茶で気持ちが整理され、帰ったらあれもこれも調べてみようと思っただけで頭の中で段取りを試みる。

バスの中で「教育と減量」談義を交わした佐賀の大先輩もご一緒しています。巨体で本殿までよく行けました。転ぶと立ち上がれなくて、横に転がって溝に片足入れて立ち上がるそう。なんと合理的な所作であろうか。

議論の結論は「ムダのない人生」。ひと回り上の方の語り口にはユーモアと真理が溢れる。残ったひとつ、六つ目の赤福は大先輩が食べた。そう、それでいいと思います。

二日目の夕食、

「平和はかけがえのないこと。日本国は戦争をしてはなりません」
こんな乾杯の発声を誰がする。台湾で生まれ育ち、引揚後も苦労しただろう。今は 90 歳の夫に苦労しているという。歴史講座での一言が以前から印象深く、異彩を放つ女性である。

自己紹介の進行係を団長先生に命ぜられた。ああ、もう飲めない。
案の定、伊勢えびとアワビを食べようとしたら土鍋の中で干乾びていた。
人生の背景が見え隠れして、楽しい自己紹介が続きました。

「長年、土木にたずさわってきました〇〇です」

ちょっとそれじゃあ、ゴルフ焼けしてるし、土建の親方と勘違いしますよ。

「みなさん、誤解されているようですが、日本国の土木の仕事をしてきた人ですから」と
友人としては補足説明を入れたくなる。厳しい倫理規程の中で服務してきたのでしょうか。

「大塚製菓のオオツカです」

これ絶対、記憶に残る最高傑作。人の名を覚えるにはフルネームで覚えることが私の記憶法ですが、相手に覚えてもらう表現法を教えてくださいました。

「ヒエ～あなた、たっ田川なの～って、いつも云われる〇〇です」

福岡にも田舎もんヒエラルヒーがあるのですね。日本を支えた一大産炭地、ボタ山もあるし英彦山もあるし！

「ならば私〇〇は、邪馬台国は太宰府の辺りじゃないかと…研究してみようと思っています」
現地に行き、自分の目と耳で確かめる方です。

「〇〇さん、今度一緒に温泉をハシゴしながら古代史旅行をしてみましょうよ」

「俺、バイクで野営しながら行くけどいい？」

「糸島にも二見ヶ浦はあるけどね。伊勢の二見ヶ浦の夫婦岩の遠く向こうには富士が見える。やっぱりこちらの方が格上だね」

伊勢神宮と富士山は日本人には格別な存在。

どうして？よりも、いつから？が自分史の中でボンヤリしている。





集合写真は断夫山古墳で撮ったこの一枚だけですが、30人みんなが同じ方向を向いています。

「きっと邪馬台国は北部九州のどこかにあった」
記紀も伝承も大事にする。万葉歌から入ったり、
伝承を集めて、構造船の設計をして、系図を追っ
てみたりとそれぞれの勉強と楽しみ方をしてい
るようです。

一週間後の歴史講座「邪馬台国への道：朝倉郡をゆく」では、旅の余韻を残した顔で学習にもリフレッシュ感がある。

邪馬台国の根拠地はこの地で移動していったのかもしれない。 と思う。

「さて、これから何を勉強していこうか」と、もう旅の課題を忘れている。

講座が終わって凡人生徒が集まって「あの“ひつまぶし”美味しかったね」

「あの後、“手羽先山ちゃん”に行ってきた」「“風来坊”の方が僕は好きだけどね」

ああ、名古屋めしのことばかり。

先生の歴史旅はタレに鉄串の様なもの。

私たちの脳ミソを熱い刺激でジュッと滅菌殺菌してくれる。

「先生はね、邪馬台国の前の歴史、その後の歴史もつなげて語ってくれる。独りよがりの押しつけ説法なんかしないもの」と元追っかけの方は言う。と思う。

「邪馬台国はここだ論」もせめて自分で歩いて匂いを嗅いで、地の人に聞いてみてから世に問わないと。

みんな「我が国の成り立ち」を正しく知りたいと思っている。